

ふくしまは負けない 明日へ

会津の古桜 元気に育て

京都の団体 活力剤を注入

一般財団法人巨木・銘木を助ける会（京都市）は十九日、震災復興支援として会津若松市・蚕養国（こがいくに）神社の「峰張（みねはり）桜」と磐梯町・懸日寺の「木ざし桜（種まき桜）」に活力剤を注入する作業をした。

同会は樹勢が衰えた国内外の巨木・銘木を調査・保全し、森の文化への理解を深める活動を進めている。安田喜憲理事長（国際日



日本放送協会経営委員時代に大河ドラマ「八重の桜」を制作が決まったことから、ゆかりの地会津の古桜を元気にする願いを込めたという。峰張桜は樹齢約千年、木ざし桜は同約八百年とされる。

同会技術本部がある広島市から、協力企業であるイービーエス産興の上野俊次技術課長が専用の車両で来訪した。

NPO法人「会津の文化づくり」の築田直幸理事長らと連携し、レバノン杉の復興にも使った活力剤百リットルをそれぞれ桜の根元に注入した。半年後に樹勢を調べる。

会津若松市の蚕養国神社で同市の指定天然記念物「峰張サクラ」の救済活動を行った。

大河ドラマ「八重の桜」の舞台となった会津で歴史ある巨木・銘木を助けようと活動した。NPO法人会津の文化づくりが主管した。

関係者によると、樹齢千年になる峰張サクラは根が



巨木・銘木を助ける復興支援活動

若松の蚕養国神社で峰張サクラに活力剤

巨木・銘木を助ける会

（安田喜憲会長）は19日、

弱り、花の数も少なくなっているという。会のメンバーが木の状態を観察し、根回りに活力剤を注入した。約6カ月後に経過を観察し、木をよみがえらせていく。

同会は同日、磐梯町の懸日寺も訪れ、種蒔きサクラにも同じ処置を施した。